

森川海人守

SUMMIT



若いチカラで考えよう

森川海を守ること

morikawakaito summit

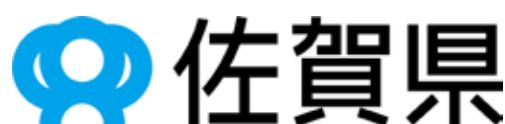
morikawakaito summit



2025.1.25 ^{Sat}



佐賀県 森林整備課
0952-25-7136
shinrinseibi@pref.saga.lg.jp
<https://www.morikawakakaito.org>



森川海人っサミット 開催

SUMMIT



森川海人サミットとは
令和7年1月25日(土)に「若いチカラで考えよう 森川海を守ることをテーマに」森川海人っサミットを開催した。これは佐賀県が「森川海人っプロジェクト」の一環として開催したもので県内5校の高校生たちが森・川・海の環境保全に関する調査・研究成果を発表した。

また、特別ゲストによるトークイベントや、プロジェクトの趣旨に賛同する「チーム森川海人っ」によるパネル展示・交流会などを行った。

佐賀の自然の魅力や環境保全の重要性を広く伝え、学びを深めることを目的としている。

PROJECT

森川海人っプロジェクト



山は川を通して平野の暮らしを支え、海への恩恵をもたらす源流でもあることから、森川海のつながりや管理の重要性などについて「森川海はひとつ」として県民に広げ、県民一人一人の意識醸成や行動につなげるもの。

森、川、有明海や玄海の豊かな自然環境を人が未来へつなげるプロジェクト。

森川海人っプロジェクトの取り組み

森川海人っプロジェクトでは、県民の皆様に、森川海のつながりや管理の重要性を知ってもらい、森川海での保全活動などの行動につなげていくため、様々な取り組みを行っている。

森川海のイベント

・森川海人っ合宿(Kurokami Camp 2024 など)

・森川海人っフェス!

・森川海人っサミット

・森川海人っ体験スクール

・波戸岬ビーチクリーンアップ

・虹ノ松原クリーン大作戦

・KAWARUプロジェクト(交流会・カヌー体験など)

普及啓発

・キャラクター・ロゴの制作

・普及啓発グッズの制作

・コンセプトブックの制作

・森川海人っ教室の開催

情報発信

・森川海人っプロジェクト公式HP・SNS

チーム森川海人っ、フィールドマスター

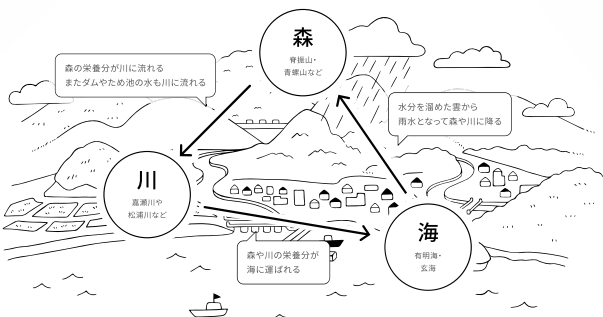
・チーム森川海人っの募集、補助事業
・フィールドマスターの認定

・地元の企業・団体と「豊かな自然を未来へつなぐ森川海人っ森づくり協定」の締結



TUNAGU

森川海はつながっています



わたしたちにできること

日々の暮らしの中でできることに少しずつ取り組んでいきましょう。取り組みの輪の広がりが佐賀の豊かな自然を守ることに繋がります。

1 森・川・海の自然を楽しむ、知る

- ・森を散歩する、登山を楽しむ、山歩きをする
- ・水がどこから流れてきているのか、考えてみる
- ・川や海で魚釣りや水遊びを楽しむ
- ・森川海のイベントに参加する



3 森・川・海にすんでいる生き物を思う

- ・生き物がすみやすい環境を守る
- ・森・川・海にすむ生き物(鳥、昆虫、魚など)の動きや暮らしを観察したり、図鑑で調べてみる
- ・田んぼやクリーク(農業用排水路)にすむ生き物を観察する



2 森・川・海を大切に思い、暮らしの中で資源を使う

- ・県産木材を大切に使う
- ・水は必要な分だけ使う
- ・県産の農林水産物や旬のものを食べる



4 森・川・海を大切に思い、ゴミを見かけない街にする

- ・指定の場所にゴミを捨てる、持ち帰る
- ・調理くずや油を川や家の排水口に流さない
- ・食べ残しや飲み残しがないよう、食事は必要な分だけ用意する
- ・使い捨てプラスチックの使用を減らす



詳細はこちらをチェック!

<http://morikawakaito.org/>

森川海人っ



HP



Instagram



Facebook

What is the morikawakaito summit?

森川海を知る・体験する

「森川海はひとつ」という思いを人が未来へつなぐため、まず始めることは、森川海を知り、体験すること。

県内で森川海を楽しむワークショップや体験イベントなど1年を通して開催している。

Kurokami Camp 2024



森川海人っフェス!



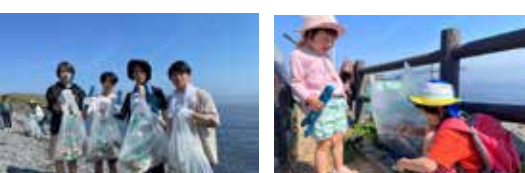
森川海人っ体験スクール



KAWARUプロジェクト カヌー体験



波戸岬ビーチクリーンアップ



佐賀の森林を守ろう ～県内唯一の林業系学科として～

伊万里実業高等学校 森林環境科

持続可能な森林経営が大切

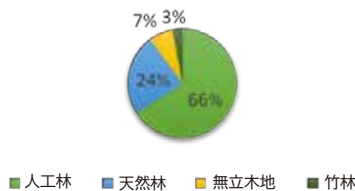


森林は、林産物の供給・水源涵養機能・山地災害防止・二酸化炭素の吸収及び貯蔵などの役割がある。佐賀の豊かな自然環境を守っていくためにも持続可能な森林経営を目標に様々な取り組みを行っていく必要がある。

人工林率 全国1位

佐賀県の県土に占める森林の割合は約45%と全国平均の66%に比べ低いものの、人工林率が約66%と全国で1位となっている。

佐賀県の森林資源現況



※佐賀県森林・林業統計要覧

特色を活かした木育体験

森林環境科では、特色を活かした木育体験を実施している。例えば、「ものづくりフェア」への参加や「火起こし体験」など様々な活動を行っている。林業に興味を持つきっかけを作っていきたい。



火起こし体験

学びと実践

林業に必要な技術の取得に向けて、チェンソーなどの伐木等安全教育講習やハーベスタやフォワーダなどの高性能林業機械講習を受講している。「最初から最後まで使いきる」を合言葉に伐木した木は、積み木やテーブルなど環境にやさしい木材製品に加工している。



高性能林業機械講習



ハーベスタ



フォワーダ

陸の豊かさを守る

環境に優しい木製製品を作り続けていくことは、持続可能な開発目標の1つである「陸の豊かさを守ろう」を達成するための1つの手段だと考える。



SDGs 目標15



万能台

2つの課題

これからの日本の林業は、「林業従事者の減少」と「木材価格の低迷」が大きな2つの課題だと思う。林業従事者は昭和40年と平成17年を比べると5割以上減少している。サガンスギの開発によって林業従事者の収入を増加させること、さが林業アカデミーの受講によって林業に興味を持つ人を増やし、林業従事者を更に増やしていく必要がある。



林業従事者の推移（国勢調査）



今後とも取り組む

4つのこと

- ① 森川海人プロジェクトへ参加
- ② 地域の小中学校との木材を用いた交流
- ③ 木材加工品のブランド化
- ④ 林業従事者の育成

林業の魅力を発信

インスタグラムやホームページなどの情報発信にも力をいれて取り組んでいる。森林環境科が行っている活動を通して、1人でも多くの方々に林業の魅力を知ってもらいたい。

森林環境科の活動を随時発信しています。ここでしか学べない魅力をぜひご覧ください。



Instagram



佐賀平野は淡水魚の宝庫

～カゼトゲタナゴの保全と魅力を発信～

佐賀平野は生物の憩いの場



佐賀市には佐賀平野という生物にとって住みやすい広大な憩いの場がある。淡水魚の宝庫であるこの環境を守っていくためにも課題を見つけ、解決方法を模索する必要がある。高志館高校環境クラブでは、カゼトゲタナゴを研究して、課題と解決方法を考えていく。

カゼトゲタナゴ人工繁殖研究

繁殖実験を通して、カゼトゲタナゴの有効な繁殖手段は「石貝」が必要だと分かった。「石貝」も減少傾向にあるため、新たな繁殖手段が必要。環境クラブでは、人工物による産卵場所づくりとして、ストローやカップを使ってカゼトゲタナゴの産卵場所を作った。



ストローを使った産卵場所



淡水生物の魅力発信

校内及び文化祭や東よか干潟ビジネスセンターにおいて淡水魚などの展示を行い、佐賀平野の淡水生物の魅力を発信している。魚の解説カードも作成したので興味がある方は足を運んでみてほしい。



「ひがさす」での展示



文化祭での展示



カゼトゲタナゴ

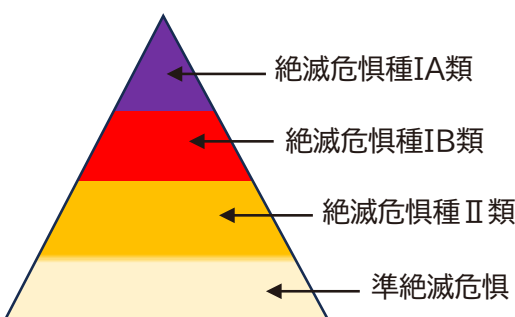
「絶滅危惧種IB類」に属している魚で、地球上で九州北部のみに生息している。気性は比較的稳定やかな魚であるため、縄張り争いに弱く、絶滅傾向にあると言われている。



絶滅危惧種IB類 カゼトゲタナゴ

絶滅危惧種の分類

絶滅危惧種の分類は左の図のようになっている。下から「準絶滅危惧」「絶滅危惧II類」「絶滅危惧IB類」「絶滅危惧IA類」となっており、上にいくほど個体数が減少している生物が分類されており、絶滅する可能性が高い。



3つの解決策

- カゼトゲタナゴを絶滅させないため、次の解決策を考えた。
- タナゴの生態・人工繁殖研究
- 生き物が生活しやすい環境づくり
- 淡水魚の魅力を発信



ゴミで作ったアート作品



ペットボトルのキャップを使った「キャップフィッシュ」



ペットボトルのラベルなどを使った「ゴミの木」



多くの人に身近にゴミがどれだけあるか知ってもらいたい。拾ったゴミを使ってアート作品を作ること、見た人が「街に落ちているゴミってこんなにたくさんあるんだな」「気を付けよう」といった美化意識が高まってほしい。

SNSを使った情報発信

環境クラブでは、日々の調査で捕獲した生き物を展示したり、清掃活動で拾ったゴミを使ってアート作品を作っている。他にも魅力的な活動を行っているので興味がある方はインスタグラムやホームページを見てほしい。



インスタグラム



クリークを未来に繋ごう

「グローバル」を合言葉に



佐賀農業高校の合言葉は「グローバル」。

地球規模の視点で考え、地域で行動すること大切にしており、日頃の学習で得た専門的な知識や技術で地域貢献できるような様々な取り組みを行っている。

私たちの生活や農業を支えている森、川、海を次の世代に引き継いでいきたい。

クリークの役割

皆さんはクリークにどんな印象を持っているだろうか。汚いや臭いといった印象を持たれている方も多いのではないかと。

しかし、クリークは農業を行う上で必要なことはもちろん、様々な生物の住みかになっていることや、洪水の抑制にもなっていることから、大切に守っていかねければならない。



調査内容

クリークを守るため、学校周辺や白石町内の水路について、汚染度や、どんな生物がすんでいるのか調査を行った。

過去に調査した結果と比較することで、より分かりやすく変化の状況を調査することができた。



調査の様子

クリークの水質調査

白石町内の水質調査では、窒素やリンの量を調査した後、10年前の過去のデータとの比較を行った。

場所によって、適正値よりも遙かに有機物の含有量が多いところや10年前より増加している場所があった。クリークの水質と、そこに生息する生き物の関連を調べるために活動や調査を引き続き行っていくたい。



クリークは生き物の宝庫

学校周辺のクリークで生物調査を行った。6つの地点で調査したところ、9種の生物が発見された。特にヌマエビはすべての地点で見つけることができ、カダヤシやカワバタモロコなどは1つの地点でしか見つけることができなかった。

カワバタモロコは絶滅危惧種IB類に属している貴重な魚である。このようにクリークは様々な生き物の宝庫となっているため守っていききたい。



絶滅危惧種IB類 カワバタモロコ

クリークは身近な存在

環境工学科110名の生徒にクリークに関するアンケートを行った。クリークや河川について、「遊んだことがある」という質問に「はい」と答えた方は54%、「生物を見たことがある」と答えた方は82%、「身近存在だ」と思う」と答えた方は91%。「自分もクリーク環境保全活動を行いたい」と答えた方は81%にも及んだ。多くの方がクリークに興味を持ち、活動を行ってみたいということが分かった。私たちが活動を持続して行くことで、思っているだけではなく実際に行動に移す方を増やしていきたい。



ゴミ掃除



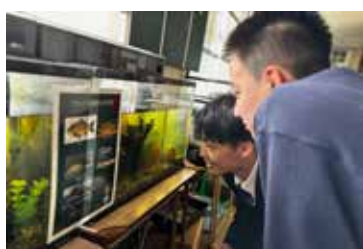
魚釣り

活動の輪を広げる

学科棟や文化祭でのクリークに生息する生き物の展示をすることで、クリークには様々な生物がいることを伝えたい。1人でも多くの人がクリークに興味を持ち、クリーク環境保全活動の輪を広げていけたら嬉しい。



文化祭での展示



学科棟での展示

有明海の伝統漁法から見る有明海の生物

有明海の伝統漁法

鹿島高校がある鹿島市では有明海が広がっている。有明海は干満差が6メートルと日本一であり、干潮時には広大な干潟が見られる。



このような特殊な環境で多種多様な生き物が存在し、「肥前鹿島干潟」はラムサール条約湿地に登録されている。そんな有明海にはいくつかの伝統漁法がある。その中ひとつである「ウナギ塚」と「棚ジブ」と呼ばれる漁法で有明海の生き物を調べたいと思い、有明海の生き物を調査した。

ウナギ塚を用いて

ウナギ塚とは、ウナギを捕まえるために石で囲んだ場所のこと。

ウナギは、川上よりも川下で捕まえることができた。これは海から遡上してきたウナギが川下のウナギ塚に入った後、出ていかなかったのではないかと推測する。



捕獲したウナギ



ウナギ塚

棚ジブ漁法とは

棚ジブは、海上に小屋を設置し、ジブと呼ばれる、竹竿をX字形に組んだ先に網を張った特殊な四手網を、この小屋の中から操作して漁を行う。小屋には満潮時に行き来できるように棧橋が架けられている。その漁法は、海中にジブ(四手網)を沈めておき、満潮にのって泳いでくる小魚類が網に入ったのを見計らって、網ですくうというもの。



ジブ



小屋

ヤマノカミの生態

ウナギ塚は5月、6月、7月の3回に分けて調査を実施したが、5月のみヤマノカミを捕まえることができた。海で孵化したヤマノカミが5月に川に遡上してしまい、7月には海にいなかったのではないかと推測する。



ヤマノカミ

シラタエビとムツゴロウ



シラタエビ



ムツゴロウ

体長7cm前後であるシラタエビが棚ジブ漁法ではよく取れた。鹿島市周辺では「サザレ」と呼ばれる。また、有明海と八代海の一部にしか生息していない「ムツゴロウ」も採取することができた。産卵期になるとオスは求愛行動として干潟の上をジャンプする。

満ち潮と引き潮の比較

調査を進めていくと引き潮の時に採集個体数が少ないと感じたことから、満ち潮時と引き潮時の採集個体数を比較した。満ち潮では、15種類の生物が2115個体採集できた。引き潮では、12種類の生物が1410個体採集できた。

	満ち潮	引き潮
種類	15種類	12種類
個体数	2115個体	1410個体
シラタエビの個体数	1813	1150

強風時の出会い

普段穏やかな有明海にさざ波が立つような強風時に調査を行った時、これまで獲れることのなかったワラスボやアカエイなどが見られた。ワラスボは満ち潮時に巣穴から出てきて活動することが知られている。強風であられ棚ジブのある岸近くまで来たと考える。



アカエイ



ワラスボ

今後の展望

1人でも多くの方に有明海の伝統漁法に興味を持ってもらうため、これから次のことについて活動していきたい。

- 二ホンウナギの生息数を調べる
- 年間を通して、棚ジブで生物を採集して、季節変動を確認する
- 学校に生物を展示して、地元の生物をみんなに知ってもらう



未来へつなぐ人と松原

～唐津南高式地域循環プロジェクト～

唐津の美しい宝「虹ノ松原」

唐津南高校虹ノ松原プロジェクトチームは発足22年を迎えた団体である。唐津の美しい宝「虹ノ松原」を後世に繋ぐため保全活動や啓発活動、

虹ノ松原の有効資源を活かした商品開発を行っている。



「楽しみながら学び、そして共有する」をコンセプトに松原を最大限活かした活動を展開している。

虹ノ松原を世界へ

虹ノ松原プロジェクトチームの活動を多くの方に知ってもらいたい。

そのため、商品開発や人材教育以外にも、環境省主催「第12回グッドライフアワード」において、実行委員



大阪万博出展決定

食べて守ろう

虹ノ松原プラン

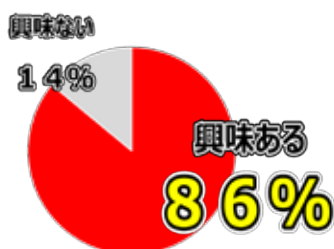
虹ノ松原は国有林であり、松原内の林産物の使用には制限がある。使用許可を持つ私たちだからこそ、松原内の林産物の活用を通じた松原保全活動を展開していきたいと思う。



松原パウダー

8割超が松葉を 食べることに興味

「食べて守ろう虹ノ松原プラン」の一環で、唐津市民30名に「松葉を食べることに興味がありますか？」というアンケートを行った。アンケートによると86%が「興味がある」と答え、14%が「興味がない」と分かった。



対象：唐津市民30名

様々な商品開発

松葉をパウダー状に加工することで、クッキーやサイダー、デザートといった商品を開発することができた。



松葉を使ったクッキー



クラフト松葉ジン

次世代に 引き継ぐために

持続可能な環境保全プランを構築するため、小さな子供にも虹ノ松原について興味を持ってもらう必要があると考えた。

そこで「楽しい虹ノ松原クイズ」や「松原の仕組みを理解し、体感する授業」「子供農山漁村交流プロジェクト」など体験を通して人材育成をすること、未来へ唐津の宝である虹ノ松原を残していく。



松原保全活動

年代に合わせた松原教育

松原の林産物を使った工作



松原クイズ



幼児期には「松原クイズ」、児童期には「ワークショップ1日店長」や「松原の林産物を使った工作」、青年期には「国境を越えた子供たち」に自ら授業をするなど、年代に合わせた松原教育を行っている。

永遠なる虹ノ松原を目指して

松原保全の参加者数はこれまで1万7千人を数える。

- ①資源を伐採
- ②商品開発などを通して大切に使う
- ③商品の普及や松原教育で愛着を植える
- ④清掃活動などで松原を綺麗に、そして育てていく



NIJI-no-MATSUBARA PROJECT TEAM
KARATSU MINAMI HIGH SCHOOL



～魚釣りYouTuberの14年間～

Talk Show

海釣りや川釣り、磯釣りをメインにしたチャンネルです。釣った魚を料理しているシーンを動画にしていることが多くですね。最初はきまぐれで投稿していたのに、今ではなぜかこんなに多くの方が動画を見てくれていて自分でもびっくりですね(笑)



Q 「釣りいろは」とはどんなチャンネルですか？



釣りいろは 徳さん

「釣りいろは」チャンネルを運営する大人気YouTuberでYouTubeチャンネル登録者数60万人、総再生回数は、6億回を突破している。

Q 普段どんな場所で撮影しているのですか？

やっぱり地元鹿島市を中心に九州で撮影することが多いですね。たくさんの方の企画をしているので、もちろん全国各地に釣りにいきますよ。



Q 環境に対して気を付けていることはありますか？

自分たちが魚を釣った動画を投稿することで、動画を見た人がその場所に来るんですよ。もちろんマナーを守る人はいませんが、ゴミを捨てて帰る人もいます。自分たちのせいでの環境が汚れるのは嫌なので、事前確認や掃除などは徹底していますね。



～千差万別の佐賀県の水辺～

Science Cafe

佐賀県には豊かな自然環境があり、個性豊かな生物が存在している。佐賀で見られる様々な生き物の生息状況について紹介し、自然の面白さや楽しさを語り合った。

佐賀大学 農学部 学生
やながわ有明海水族館の館長として2021年から3年間活動し、生物多様性保全の必要性や自然環境の魅力について啓発を行う。日本テレビ「超無敵クラス」やテレビ朝日「激レアさんを連れて来た」への出演をはじめ、佐賀新聞の連載や書籍の執筆を行う。

佐賀大学 農学部 教授
専門は生態学であり、日本応用動物昆虫学会奨励賞や日本農学進歩賞など様々な賞を受賞。著者に「植物をたくみに操る虫たち」や佐賀新聞「生き物ヒトとなり」を連載。

亀井 裕介さん



実は佐賀県って“干潟王国”なんです！
佐賀県には、有明海や玄海灘、背振山地や多良山地、嘉瀬川や筑後川など様々な自然環境があるため、様々な生き物が生息しています。特に、干潟を見ていると、伊万里湾の干潟は、西日本の干潟で見られるような生き物が多い砂泥干潟で、有明海の干潟は希少生物に加え、大陸由来の生き物が多い泥干潟なんですよ。

佐賀の生き物を探して見てほしい！
佐賀県は自然環境が整っており、それぞれの地域で個性のある生き物を観察することが出来ます。ぜひ山や森・川・海などに足を運んでみてください。絶滅危惧種に認定されているような珍しい動植物が観察できるかもしれません。

徳田 誠 教授



佐賀県で見ることのできる生き物たち



ハゼグチ



カブトガニ



ワラスボ



シマヘナタリ



ウモレバンケイガニ